

最新！宗教情報 /// No. 3

◎首相靖国参拝、賛否は二分 中韓との関係「心配」65%

【朝日新聞、10/19】小泉首相が靖国神社を参拝した直後の17日夜から18日にかけて、朝日新聞社は緊急の全国世論調査（電話）を実施した。首相が参拝したことを「よかった」とする人は42%、「参拝するべきではなかった」は41%で、賛否が二分された。参拝に対し中国、韓国は反発を強めているが、両国との関係悪化を「大いに」「ある程度」心配している人は合わせて65%に上った。両国の反発を政府が「重く受け止めるべきだ」とした人も53%いた。参拝の評価が割れる一方で、周辺国への配慮を重視する意見の強いことが改めて示された。

参拝の賛否は、男性では「よかった」38%、「参拝するべきではなかった」46%と反対が多いが、女性では46%対36%で賛成が上回った。年代別では、60歳以上で「よかった」が半数に達した。

支持政党別では、自民支持層で「よかった」が65%と高い。内閣支持層では「よかった」が58%で、参拝への見方が首相への評価と関連している様子もうかがえる。

参拝を「よかった」と答えた人に理由を聞くと、「戦死者への慰霊になる」が37%で最も多く、次いで「外国に言われてやめるのはおかしい」24%。反対した人の理由では、69%が「周辺国への配慮が必要」を挙げた。質問の仕方が異なるため単純に比較はできないが、6月調査では参拝中止を求める人の72%が「周辺国への配慮」を挙げている。

中国や韓国との関係悪化を「大いに」「ある程度」心配している人は、「参拝するべきではなかった」と答えた層では88%に達した。支持政党別では、自民支持層で心配していると答えた人は53%だが、民主、公明など他党の支持層ではいずれも7～8割に上った。

一方、公明などが求めている無宗教の国立追悼施設を新たに造ることについては、賛成51%、反対28%で、6月調査（賛成42%、反対34%）に比べて賛成が増えた。参拝を「よかった」とする人でも45%が賛成し、反対の34%を上回った。自民支持層でも賛成が49%とほぼ半数に上る。

首相は今回の参拝について「ひとりの国民として参拝した」などと説明したが、この説明に「納得できる」は46%、「納得できない」は45%で、受け止め方は拮抗（きっこう）している。

内閣支持率は55%、不支持率は30%で、総選挙直後の9月調査（55%、30%）と変わらず、高い水準を維持。政党支持率は自民42%（9月調査43%）、民主16%（同19%）など。無党派層は27%から34%に増えた。

◎断種、神社参拝強要も ハンセン病訴訟25日判決

【共同通信、10/21】日本植民地時代に造られたハンセン病療養所「小鹿島（ソロクト）更生園」（韓国、現国立小鹿島病院）と「楽生院」（台湾、現楽生療養院）に隔離収容されていた入所者ら142人が、国にハンセン病補償法に基づく補償請求を退けた処分取り消しを求めた訴訟の判決が25日、東京地裁で言い渡される。

両療養所は戦前、日本のハンセン病患者隔離政策に基づいて開設。訴えによると、全土から集めた患者を強制収容して重労働や断種手術、神社参拝などを強要した。

2001年、熊本地裁のハンセン病訴訟判決で元患者側が勝訴したのを機につくられたハンセン病補償法は、居住地や国籍などに関係なく元患者らに補償金を支払う規定だが、訴訟で国側は「旧植民地の療養所は対象外」と主張。元患者側の「植民地支配の中、日本以上に過酷な被害を受けたにもかかわらず

ず彼らだけ補償されない。この不平等は何か」(弁護団事務局次長の鈴木敦士弁護士)との訴えをどう判断するかが焦点だ。

原告の元患者蔣基鎮さん(84)は1941年、20歳で小鹿島の療養所に入所した。強制労働の傷がもとで、両手指や両足を切断。キリスト教信仰を理由に神社参拝を拒否すると、気を失うまで殴られた末、断種された。「人間の命のつながりを絶たれた気持ちは、言葉に表しようもない」

金基顕さん(88)の家族は強制収容後の差別に耐えられず、故郷を離れた。移住した先は朝鮮戦争後、北朝鮮となり家族は音信不通だ。「当時はことあるごとに『内鮮一体』と叫ばれていた。今、小鹿島を日本の療養所じゃないというのは納得できない」と話す。

原告の平均年齢は81歳。鈴木弁護士は「一日も早い補償が必要だ」と訴える。

「わたしは長い間、自分にも人権があることを知りませんでした」。原告の1人の女性(80)はきょうだい3人で楽生院に入所した。

幼いころにあこがれたという日本。その国を相手に争う裁判で訴える。「あなたが、わたしたちから奪ったものの大きさから、目をそらさないでください」